

変化にも皆で協力し、 会社をより良くしていく

株式会社 近藤材木店

代表取締役 近藤真一郎 さん

住所…大川市大字酒見 11211
TEL…094418713128
FAX…094418615864

今月の夢追い人は、(株)近藤材木店の近藤真一郎さんにお話を伺いました。

(株)近藤材木店は、江戸時代末期の1865年に創業され、昭和26年に法人化して現在に至ります。

「(株)近藤材木店以外にも家具卸の(株)近藤産業、スマイルホテル福岡大川、それからもう一つ不動産会社があり、現在は4社を経営しています」

(株)近藤材木店は40歳になられた年に会社を引き継がれ、近藤さんで6代目になる

とのことでした。

「高校を卒業して2年間ほどはアメリカへ語学留学して帰ってきて、静岡の同業種に近い会社へ就職し、大川へ戻ってきました。大川へ戻ってからは、まずは(株)近藤産業に就職をして、2年くらいは工場にいましたね。その後、営業職を経て、(株)近藤材木店に入りました。配達や営業を担当するようになり、叔父が亡くなってからは、叔父が担当していた仕入関係にも関わるようになりました」

(株)近藤材木店ではなく、

まずは関連会社に就職された理由などはあるのでしょうか。「基本的になんでも覚えて経営に活かしてほしいという父の想いもあったと思いますが、私自身も嫌ではありませんでした。また取引先の方を覚えることもできましたし、現在に大いに活かされていることなので、経験してよかったです」

江戸時代末期から続いている(株)近藤材木店。法人成りしてからの年数のほうが近藤さんの年齢よりも長いそう





(株) 近藤材木店とスマイルホテル福岡大川

です。それだけ長く続いていることを考えすぎるとプレッシャーにもなるとのこと。「私ができる範囲でやっていけばいいと念頭においています。長い間続けてきたことに関してプレッシャーがかかりすぎないように。やっばり時代の流れというものがあって、

昔には合ったことも今は合わなかったりとか、たくさんあると思うんです。だからやるものはやめて、続けることは続けてという判断の時期でもあるかなと考えています。私だけで終わるのではなく、次の後継者に繋がるように。引き継いだ時にわかりやすく、整理整頓をしておきたいなと考えています」

また会社としては、人材育成にも力を入れて取り組んでいるとのこと。

「地域柄、職種柄もあると思いますが、なかなか若い方が入ってきてくれないことは悩みでもあり、課題でもあります。定年後も体が丈夫なら勤めていただけませんかと頼むこともありますね。長く勤めてくださる社員の方も大事にしたいし、若手にはしっかり教育をしていくことが大事かなと思っています。先代の父も社員をよく可愛がっていましたね。私は特に、『協力』という言葉を大事にしています。大川木材事業協同組合の青年部である大川木材青年会の会長を務めたときには、

本当に感謝しかなかったです。何事も一人じゃ何もできない。みんなの協力がないと一つの事が成し遂げられないと実感しました。会社でも同じように、社員と協力していくことが大事だと考えています」

では社員の方々に日々伝えていくことなどはあるのでしょうか。

「運搬も大切な仕事のひとつです。荷下ろしや荷積みの際には気をつけるよう伝えていきます。それから運んでいる最中の車の運転も気をつけてくれと伝えていきます。このご時世、自分は安全運転しているつもりでも、怖いと相手を感じたらいけませんから、十分気をつけて運転してください」とは口酸っぱく言っています」

もともとは製材所だった(株) 近藤材木店ですが、現在は時流を読み、様々な形態に対応しているとのこと。

「(株) 近藤材木店も今は家具資材の販売をメインに行っていますが、もともとは名前のとおり製材所だったんです。やっばり時代の流れによって

様々なモノ・コトが変わっていきますし、それに対応できなければ取り残されるかなというのがあります。そう考えるとホームページも作り変えないといけないですね。このご時世、みなさんホームページを見られますから。会社名は『(株) 近藤材木店』ですが、

実は現在はあまり材木を取り扱っていないんです。なので、社名だけで材木のことを尋ねられても、なかなかお答えできないこともあります。150年以上続けてきた社名は簡単に変えられません。できる限りお客様からの様々な要望には対応するように心がけています」

大川市内で材木を扱っていても、家具資材を扱う業者、建材を扱う業者など様々な業者がいるそうです。

「現在、大川木材事業協同組合には約50社が加盟しています。木材が使われる用途はそれぞれ違いますが、木材に関わる企業として組合一丸となって大川を盛り上げていこうと取り組んでいますね」

自社だけでなく、大川市全体がこれから盛り上がってくれたらとお話された近藤さん。そんな近藤さんの夢はなんでしょう。

「私が常に思っているのは、これまでもこれからも、やっばりみんなが幸せにならなくてはいけないなど。自分だけがよければいいではダメだと思っています。みんなが良い暮らしができて、大川市がいい街になればいいなと思っています。私達の年代はそういう考え方を持った経営者が多いですね。みんながよくするために助け合わないとダメなんじゃないかって。同業種・異業種関係なく、困っているときは助ける。助け合いの精神がこれからの時代は大事になってくると私は考えています。そういう意味では父が様々なことに参加してくれていたのは、今の私の助けになっていきますね。大川商工会議所の会頭を長年務めていたこともそうです。ただこれからは先代までの色だけでなく、私の色を出して会社をより良くしていきたいですね」